

< 1頁から続く >

「……私が18歳の時、牧師になる献身の祈りを箱崎の海岸で捧げ、両親にもそのことを告げない先に、ドージャー先生に申し上げると、涙を流して喜んで私のために祈ってくださいました。お前は鈍才だから、また、手の不自由な者だからいけないとおっしゃらないで、共に神の前に喜んでいただいた。とにかく西南の中には春風のような暖かい空気が流れ、私もその中であって育てられたのを一生の中で一番幸福な楽しい時だったと今も思っています。先生の信仰の土台に立てられた西南。……これから何十年何百年先の西南があるとすれば、私は創設者ドージャー先生の生きた信仰が、今もこれからも生きており、また生きてゆくかどうかにあるのではないかと思います」(河野博範—文学部教授。福岡アサ会牧師—「C.K. ドージャー先生の人格」(1951年より。同115～116頁)。✕

2013年度神学校献金(神学生奨学金献金)及び全国壮年会連合会費の状況(2013年11月現在)

地方連合名	神学生奨学金献金					連合会費				
	2013/11実績		前年同月		対前年額	2013/11実績		前年同月		対前年額
	金額	教会	金額	教会		金額	教会	金額	教会	
北海道	341,392	9	363,451	8	-22,059	55,500	4	66,000	5	-10,500
東北	571,848	14	489,783	12	82,065	65,000	10	64,500	9	500
北関東	1,305,215	14	1,449,389	16	-144,174	211,500	11	114,000	7	97,500
東京	2,158,725	23	2,044,188	22	114,537	237,000	13	211,500	13	25,500
神奈川	1,802,748	12	1,973,484	13	-170,736	196,500	9	210,000	9	-13,500
西関東	455,800	7	396,314	7	59,486	57,000	7	37,500	5	19,500
中部	701,635	8	288,300	6	413,335	0	0	13,500	1	-13,500
関西	641,182	16	816,590	21	-175,408	82,500	7	91,500	6	-9,000
中四国	690,720	14	851,010	15	-160,290	105,000	10	111,000	12	-6,000
北九州	700,760	14	937,151	16	-236,391	97,500	8	97,500	9	0
福岡	1,781,733	25	1,740,024	24	41,709	183,000	15	169,500	14	13,500
西九州	800,637	9	143,990	5	656,647	36,000	4	4,500	2	31,500
南九州	623,773	12	288,581	11	335,192	139,500	11	75,000	7	64,500
個人団体等	398,940		575,425		-176,485					0
総計	12,975,108	177	12,357,680	176	617,428	1,466,000	109	1,266,000	99	200,000

今月も献金、会費ともに前年同月を上回っています。(対前年：献金=105%、会費=115%)引き続きご協力ください。

第2回奨学金委員会報告 11月16日 於) 連盟事務所

連盟定期総会の翌日開催という事もあり、その熱気をそのまま持ち込んでの会議となった。報告事項として西南学院大学神学部報告、第2回理事会報告と第59回連盟定期総会報告を伺った。神学部報告の中では来春卒業予定の神学生の動静を伺った。全国壮年会大会の折にも神学生が神学部卒業後に福音宣教の現場で活躍されることを期待する声が聞かれたことから、委員会の中でもそれぞれの卒業予定者がそのタラントにふさわしい働き場が与えられるように祈った。また2014年度入学予定者の面接報告があり、新たに7名の編入学予定があるという嬉しい報告を受けた。議事では

- 2014年度貸与奨学金申請者8名の審査が行われ、学業や研修教会での様子を確認し、全てを承認した。
- 規程第11条(奨学金の返還)該当者の確認を行なった。返還対象者に返還計画書の提出を求めているが、返信されないケースもあり、そのような方への対応について多くの時間を費やして協議した。特に前回から問題となっている対象者については推薦教会にも報告するとともに、何とか関係が築けるような努力をすることを確認した。また一旦牧師として就任した後に規程年限に未達で辞任され就任待機中のケースに関しては、課題として対応を検討することとした。

返還滞納者に対しては通知だけでなく、面談などでの対応が必要だと思っているが、委員としての働きにも限界があり苦慮している。返還が滞れば最終的には推薦教会の責任が問われることとなるので、神学生も推薦教会も在学中はもとより卒業後も緊密な連絡が取れ合うような関係を持ち続けることが大切であることを痛感している。滞納されている方や就任待機中の方のために心を合わせて祈りたい。

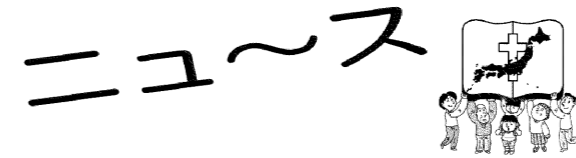


堺キリスト教会壮年会の方々

全国壮年会連合では2014年4月からの事務局員を募集しています。詳しくは下記にお問い合わせください。

日本バプテスト連盟全国壮年会連合
〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4
事務局執務時間：月、水、金 10:00～16:00
☎・fax：048-886-7533
http://www.sonen.net sonen@bapren.jp
振替 00150-7-669605 日本バプテスト連盟 全国壮年会連合事務局

全国壮年会連合



2013年12月20日

No.79

日本バプテスト連盟全国壮年会連合
発行人 大城戸一彦
編集人 井伊 肇
Topics password → sorengo

西南学院(神学部!)の生みの/育ての親
C.K.ドージャー先生御夫妻を憶えるべし

西南学院大学神学部長 天野 有



ここ最近、NHK大河ドラマ「八重の桜」を観て、新島襄・八重御夫妻のキリスト教信仰に心動かされること少なくない。——1933年5月31日、西南学院の創設者C.K.ドージャー先生が小倉市西南女学院の自宅で天に召されてから約五カ月後、佐々木賢治氏(1926～39年、中学部長)はその追悼文「故ドージャー先生を仰ぎ見て」にこう記しておられる。「私は、同志社の新島襄先生とわがドージャー先生と……そこに一脈の共通点を思うものである。同志社が新島氏の没後幾十年〔=43年〕かに亘りて、追慕の至情が深まりこそすれ、少しも緩まぬ如く、わが西南においてもドージャー氏に対して同様であろうことを信ずるものである。そしてご自身は、9年余の親交を通して「先生の人格により信仰により非常に多くの啓蒙を受けたことを感謝している一人」だと末尾近くで深い謝意を表明しておられる(『ドージャー院長の面影』ドージャー先生追憶記念事業出版部発行、1934年、83～84頁。但し、現代仮名遣いに変えてある)。この文が書かれてから80年——すなわちドージャー先生が召されてから80年——、その後の同志社大学が創設者をどのように想起してきたかは存じ上げないが、少なくとも今は確かに関係者の「追慕の至情」は改めて「深まり」つつあることだろう。(因みに、『日本史広辞典』山川出版社、1997年には、「新島襄」の項目はあるが「C.K.ドージャー」のそれは残念ながらない。他方、「同志社大学」には「京都市にある私立大学。1875年新島襄が山本覚馬、アメリカ人宣教師J.D.デービスの協力をえて創立したキリスト教主義の同志社英学校が前身……」、「西南学院大学」には「福岡市にある私立大学。1916年プロテスタントの宣教師C.K.ドージャーが設立した私立西南学院を母体とする……」、との説明がある。元号は省略。)

その「わが西南」のドージャー先生は創立十周年にこう書いておられる。「1916年4月、米国南部バプテスト伝道局の日本における伝道事業として、福岡市大名町105番地を仮に定めて2棟の校舎と、土地2千5百坪を有する学校を青年たちのために開きました。この学校を開いた主な目的は、青年たちに知的、霊的な教育を施すためでありました。私どもはこれらの青年が生涯キリスト教の伝道に従事されることを大変希望したのであります。というのは、現在の日本は完全に教育された牧師を要求していることを私どもは痛感したからです。私どもは最善の教育をなすためには学校を小さくせねばならないとその時にも感じ、今でも感じています。学校の良、不良は、美しい校舎とか学生の多さによってははかれるのではなく……」(『SEINAN SPIRIT C.K.ドージャー夫妻の生涯。西南学院創立80周年記念』学校法人西南学院発行、1996年、79頁。下線は天野による。以下同じ)。「現在の日本は完全に」——「霊的に正しく」と言い換えてもドージャー先生は許してくださるだろう——「教育された牧師を要求していることを私どもは痛感した」がゆえに、先生は「南部バプテスト連盟外国伝道局に手紙を送り、神学校設立の必要性を訴え、そうしてその訴えが聴き届けられて、すでに1907年、われらが神学部の「源流」たる福岡バプテスト神学校設立の運びとなったのである(『神学部建学100周年を祝う』西南学院大学神学部発行、2008年、の青野太潮神学部長の「巻頭言」)。また、後半の「学校の良、不良は～」の意味については、次の文章がよく説明するであろう。「ドージャーにとって重要なことは……この世との妥協を排してキリストに忠実ならんとする信仰であった。ドージャーは、新たに就任する教師に、よく、「It is our purpose to make a good school, not a big one」と語ったという。その「善き学校」とは、まさに「キリストに忠実な学校」だったのである(80周年記念誌54頁)。ドージャー夫人については、吉原勝氏(中学部卒業生。後に西南学院高等学校教諭)が1979年、こう記しておられる。「ドージャー師がなくなられて後も、夫人は日本人に対するキリスト教教育に深い関心を寄せられ、特に、女子教育に主力を注がれた。女子神学校・西南保母学院(現在の西南学院大学文学部〔現在は人間科学部——天野〕児童教育学科の前身)の創設に力を尽くされた」(同107頁)。

最後に、われらが神学部(特にその卒業生である年配の牧師先生方)に深い関わりのあるお二人の先生の言葉から。「私は〔ドージャー〕先生の良い学生ではなかった。幾度か先生を怒らせ、幾度か悲しませた一人であった。その私がどうにか牧師になり、母校の教師となって先生の志を継ぐ者になり得たのは、先生御夫妻の真摯な御指導と温情の故であった。先生の告別式の後、生前の先生の御苦勞と温かい心を偲んで、涙のうちに柩を運んだことを思い出す」(三善敏夫——神学部教授——「真実一路 十字架の道を歩んだ人」(1979年より。同103頁)。<4頁に続く>

きたかん壮年会と神学校献金・神学生支援活動の紹介



北関東地方連合神学校献金推進委員 飯野賢（宮原キリスト教会）

きたかん壮年会は、20の教会・伝道所、約340名の壮年で構成されています。2009年の筑波での全国壮年大会を機に、壮年会として組織化され、会員相互の親睦と信仰を深め、所属教会・伝道所の強化と連合の発展に寄与することを目的として、その活動は奉仕活動、研修会を通じて伝道者の養成と支援が主たる事業です。

今年度は、連合内教会の会堂外壁塗装や被災地ボランティアへの派遣、連合少年少女大会への奉仕者派遣、9月研修と1月の総会、全国大会参加です。新しい試みとして、東北連合壮年会と協力して秋田教会への「きたかん伝道隊」に協働参加し伝道者育成と壮年相互の交わりを深めました。

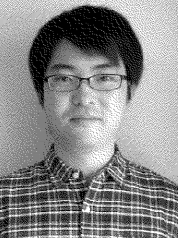
きたかん壮年会の大切な活動である、神学校献金・神学生支援への取り組みでは、まず昨年2012年度の活動の結果、西南学院の卒業学生として1名、大学院進学1名、東京バプテスト神学校の卒業学生として2名が、それぞれさらなる学びと牧師として現場に巣立ちました。この方々は連合の伝道委員会が推進する毎年8月の青年伝道隊の奉仕者の中から、献身し各神学校へ入学していることは感謝です。これらは、地方連合総会（2月）、壮年会総会（1月）、壮年研修会（9月）その他の連合行事の共通認識として「伝道者が起こされ、育成と支援」が共有されていることだといえます。

壮年会が取り組む伝道者の育成と支援の働きの中で、私自身は神学校献金推進委員であるとともに、東京バプテスト神学校の連合選出理事でもあります。特に2012年度から奨学金支援対象者が、3神学校生に拡大されたので、各学校経営と神学生の生活、さらに後援会活動など幅広い視点から取り組み、働きも深められると感謝しています。

推進委員としての活動は、教会学校や礼拝、神学校週間などで神学生の様子を紹介し、神学校献金と神学生支援をより深く理解すること、教会から神学生を送り出すことは、チャレンジでもあり楽しみでもあることが学べます。

今年度は連合会長の作成した「神学校週間の推進のためのアピール文書」を用い、神学校週間に神学生の派遣を盛り込んでもらうように依頼しました。伝道者養成と支援は、連合や壮年会の総会、壮年研修会など連合行事の中で常に「伝道者の育成、神学生支援、さらに自分か献身」に結びつくように地道な活動を推進しています。

四年間の学びを終えるにあたって



西南学院大学大学院神学研究科博士前期課程2年 村田悦（推薦教会：札幌バプテスト教会）

主の御名を讃美いたします

神学部に入學して、早くも四年か経とうとしています。これまでの学びを支え、励ましてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

先日、祈禱会の中で、出エジプト記29章を分かち合いました。新共同訳聖書では、「祭司聖別の儀式」と見出しが付けられている箇所です。そこには、一人の人が、祭司として立っていくために必要な儀式が書かれています。「しち面倒くさい儀式」そこに書かれた細かい指示を読みながら、ある方がそうおっしゃいました。確かに、非常に面倒な指示が沢山書かれています。しかし、その面倒な行為一つ一つが、一人の人を祭司として立たせたのです。一人の人が祭司として立つということは、簡単なことではありませんでした。そこでは、多くの犠牲が献げられました。その犠牲を通して、祭司は、自分の罪に気付かされ、赦しを得、使命が与えられ、その使命を受ける覚悟が整えられていったのです。

この四年間を振り返ってみると、本当に色々なことを思い出します。中には、思い出したくないこともあります。タイでインフルエンザにかかったこと、郡山で風邪を引いたこと、韓国で失神しかけたこと…。沢山の人に迷惑をかけ、その度に助けられました。「私が誰かの隣人になる」のではなく、いつも「誰かが私の隣にいてくれた」四年間でした。不甲斐ないというか、情けないというか…。しかし、そのような出来事を通して、私は、自分の弱さや足りなさに気付かされ、傲慢な思いを打ち直されてきました。確かに思い出したくない思い出ですが、同時に、決して忘れてはいけない貴重な経験として、胸に刻み込んでいます。このような貴重な経験をすることができたのも、沢山の方々の助けと支えのおかげです。多くの犠牲の供え物によって、一人の祭司が立てられていったように、私の四年間の歩みも、沢山の方々の助けと支えによって、ここまで歩むことができました。

4月より、日本バプテスト連盟大分キリスト教会の牧師として、新たに仕えて参ります。不安や心配は尽きませんが、「誰かが私の隣にいてくれる」ことを信じ、私も「誰かの隣人になっていきたい」と願っています。キリストに従う恵みを、誰かの隣人となる喜びを、共に感じることができる教会をたてあげていきたいと願っています。どうぞ、これからも、お祈りとお支えをよろしくお願い申し上げます。



「種まきの仕事」

—「NPO エチオピアの未来の子供」のボランティア活動を終えて—
鯉刈登（水戸バプテスト教会）

「あなたかたの内に働いて、御心のままに望ませ、行かせておられるのは神であるからです。」（フィリピ2:13）

私は、2009年8月から3年間、「NPO エチオピアの未来の子供」のボランティアとして、エチオピアの小規模農民への農業技術支援活動に携わりました。このNPOは、笠間市に在住する陶芸家タスファイエ・ガライヤさんを会長として、40名足らずの会員によって組織され、「エチオピアに農業学校を建設する」という理想を掲げて2002年に設立、2006年2月NPOとして認証されたものです。

私は、1994年3月に茨城県職員を定年退職するとすぐに、「農業技術をもって国際貢献を果たしたい」という長年の夢を、JICAの派遣専門家として、アフリカ・タンザニアの「キリマンジャロ農業技術者訓練センター計画」のチームリーダーとして実現することができました。7年間、灌漑稲作の技術研修センターの設立と運営に携わり、多大の成果を上げることができました。このJICAプロジェクトは現在も継続されています。2001年タンザニアから帰国した際、かつての職場の後輩からエチオピアの未来の子供 NPOへの加入を勧められるままにNPOの会員となりました。

2002年には県立農業大学校へ嘱託として後進の指導に3年間従事しました。ここは農業後継者の養成機関です。私は、農業大学校勤務の傍ら「エチオピアに農業学校を建設する」というNPOでの活動計画を立て、資金的支援をいただくために、JICAがNGOと連携して海外技術協力を進めるための「草の根技術協力事業」の導入に取り組み、結果的には学校建設という長期事業ではなく、直接農民に働きかける普及事業として取り組むこととなり、3年間で1,000万円の事業費で、首都アジスアベバから北へ100kmほどの地域で、人口35千人のフィチェに事務所を構えて、そこから30kmほど農村部に入ったヤヤグレシ郡下の5つの村を対象に、主としてタマネギの一種シャロットなど現金収入源となっている野菜の栽培改善に取り組みました。

アフリカは一般に雨季と乾季に分かれていますが、活動地は標高2,600mの高地ですが、幸い極小規模の湧水源地があり、乾季にその貴重な水を有効に活用した灌漑野菜の生産技術の改善に取り組みました。予め茨城県単独事業である「海外技術研修事業」を活用して、2人の青年に日本で研修を授けた現地スタッフと共に、政府職員である農業普及員や中核農民に対して、実践的に技術を学ばせるためモデルファームを設置運営しました。

3年間という限られた期間での活動でしたが、取り組んだ改善技術が目に見える形で普及してゆく様子は、何にも代えがたい喜びでした。私が国の内外を問わず、農業技術を通して種子播きの仕事に限りない喜びを感じてきましたのは、いつも神様に押し出されたからです。

堺キリスト教会 兄弟会活動報告

マタイによる福音書18章20節「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」。堺キリスト教会は、平良先生の就任以来、主日礼拝を第一に掲げて、歩んできました。何事も礼拝優先、いかなる行事計画も礼拝をなおざりでは、止めた方がいいと考えています。堺教会の壮年会は、年齢層、既婚未婚を問わず、間口を広くし、名称を兄弟会にしました。「主に在って、主の愛に答えつつ、自分の基準を他者へ押し付けず、互いの個性や多様性を認め、祈り支え助け合う。」ことにしています。3年前にホームページを前会長の福島兄が中心になって作ってくださり、それを見て訪れて下さる方があって喜んでいました。兄弟会の現在会員は、28名。毎月第1主日に例会が開かれていて、毎回6～9名集まり、祈りと学びの時を持っています。テキストを選んで、分担して、発題と各自感想や近況を聞き、単身赴任の兄弟、高齢の兄弟のことを覚え、共に祈りのひと時を持っています。この4年間は、以前に挑戦して、途中で挫折していた、ボンハッファーの「共に生きる生活」（森野善右衛門訳・改訂新版）を分担して、共に読み終えることができました。今年は、「世の光」の小林先生の「詩篇に導かれて」です。前回は、ナチスドイツの強制収容所を訪れた吉沢兄に、スライドや冊子によってお話を伺うことができ感謝でした。今までの学びの中で、兄弟会で、韓国、広島、長崎、沖縄に原爆や、日本軍の侵略の歴史を学ぶ旅行にも出かけました。今、教会墓地は、加藤執事が中心に墓地委員会で検討しつつ、婦人会の方々と協働して、建設着工にかかったところです。

また先日は、今年新しく入った若い田中兄の歓迎会を近くのレストランで開き、歓談のひと時を持ちました。また忘年会をしようということでした。同席の池田兄は、89才、自分の畑で栽培しておられる、りっぱな鑑賞菊が、今教会の玄関前に並べられて、みんなの目を楽しませています。柿や野菜も時々持って来て下さり、世界祈禱日献金などに捧げられます。森岡執事もクリスマスには、リースを造って、教会に持って来て下さり、みんなに分けて下さいます。森の恵みを届けて下さるのに、一同喜んでいました。吉野執事は、礼拝前の会堂の整えに気を配って下さいます。田矢執事は、全国壮年会連合の事務局長に続き、監査をあと1期務められます。関西地方教会連合壮年会では、2009年から4年間、田矢執事が会長、池田兄が書記を務め、今の役員会に引き継ぎました。

今年は、平均年齢より遥かに若い2人の兄弟に、沢井兄には副会長、会計には、去年に引き続き原田兄に引き受けて頂きました。〈記事：会長 池田肇夫〉 写真は4頁に掲載